

第13分科会 特別支援教育

11

集団の中で個が輝ける指導の工夫 —トーンチャイム合奏を通して—

1 設定理由

学校内での特別支援学級の生徒たちは、安定した生活を送れており、日常の授業においても、常に一生懸命とりくんでいる。しかし、始めから自力で何かを成し遂げ、それを生活や将来に役立てることは難しい。そのため、教員からの指示を待つことが習慣になっている生徒も少なくはない。

生徒たちはいずれ社会に出て、様々な人々の中で生活していかななくてはならない。しかし、学校生活の小さな社会でさえも抵抗をもって、入っていくことを拒む生徒もいる。学校行事などの彼らの位置は、どうしても脇役になってしまうのが現状である。

そこで、自力で作上げたものを人前で発表することにより、少しでも自信と自己存在感、自分が背負う責任を感じられるとりくみをし、全員が輝かしい主人公となれる成功体験をすることで、個々の大いなる可能性が広がる活動として本主題を設定した。

2 研究仮説

生徒が理解しやすい楽譜の作成を工夫すれば、自力で練習ができる意欲的な学習活動になり、成就感や達成感を味わうことができるであろう。また、他を意識した集団の中で、個の役割を果たし目標を達成すれば、自信を持つことに繋がるであろう。

3 研究内容

楽譜作成や合奏練習の工夫。また、発表する場の設け方。その実践を通しての生徒の変容を研究とした。

4 結論

日常の様々な場面で、自主的な活動が見られるようになり、表現能力も向上してきている。他を意識した、周囲への気配りが少しずつではあるが、できるようになってきた。また、集団の中に入っていくことに対しての抵抗も薄くなりつつある。他の学習においても、自力でとりくもうとする姿勢が多く見られるようになった。問題解決の方法を自分たちで話し合い良い方向へいくように努力するようになった。

一方、合奏する場合の条件を整えるのは難しく、特に少人数になると不可能なとりくみとなるので、それに代わる活動の工夫が今後の課題として残る。

13

長生支部

白子町立白子中学校

若菜延代

I 研究主題

集団の中で個が輝ける指導の工夫
—トーンチャイム合奏を通して—

II 設定理由

1 生徒の実態から

本校には「自閉症・情緒障害」と「知的障害」の特別支援学級がある。今年度は6人の生徒の在籍があるが、ここ数年は7～8人前後の生徒が特別支援学級で学習している。生徒の実態については千差万別であり、その年度によって人間関係も障害の度合いも様々であるが、ほとんどの生徒は安定した学校生活がおこなわれている。学習に対してもけじめある態度で臨み努力している生徒がほとんどである。授業の中で与えられた課題や教えられた活動に関しては、一生懸命とりくみ自分のものにしようと努力はしているが、それは受け身の学習でありそれを応用させての次へのステップにはなかなか繋がらないのが現状である。そこで、自力で工夫し活動できる学習の一環として本主題を設定した。

2 集団との関わりから

個に応じて通常学級への交流授業を受けている生徒もいるが一人一教科程度でありほとんどの生徒の交流は、校外学習や学校行事などできる範囲のみの参加でしかない。それでもそれは「他者との交流」「集団行動の学び」の場としてなくてはならない大切な学習の一つである。しかし、集団の中の彼らが中心的な存在になって活動することは少ない。

生徒たちは個々のニーズに合わせて日々の学習活動にとりくみ、その中でできることが少しずつ増え、身につけ、卒業していく。否応なしに生徒たちは近い将来、社会に出て自立していかななくてはならない。他者の中で交流することは避けられないのである。しかし、中学生の現時点ではその壁は厚く抵抗をもっている生徒がいる。「なぜか？」の部分は個々違いがあるので一概にはいえないが、全校生徒の一員としての大きな集団や特別支援学級での小さな集団との関わりを通して、少しでも自信をもって人生を歩めるおとなになってほしい。プライドをもって生活してほしいと考える。

そこで小さな集団の中で他者を意識した活動をすることや、大きな集団の前で努力した成果を表現し成功体験ができる一方法として本主題を設定した。

3 とりくみの背景から

集団の中で主役になった経験が少ない生徒たちに、一人ひとりが輝ける場とはどのような場なのだろうか？学校行事の中では文化祭がある。合唱コンクールでは通常学級の生徒たちが全力で練習し発表する姿がある。特別支援学級としての発表を目標の一つにしとりくむことは仲間を意識し、目標に向かって作りあげる絶好のよい機会だと考えた。

そこで、誰もが容易な力で音を発することができるトーンチャイムを使い合奏にとりくむことを試みた。合奏練習を通し試行錯誤する中で自己表現と更に次へのステップに繋がる活動として本主題を設定した。

Ⅲ 研究のねらい

個々が意欲的に活動し、集団の中で個の存在意識をもち、自信をもって表現できる支援や配慮を工夫した実践を証明する。

Ⅳ 研究仮説

- 1 生徒が理解しやすい楽譜の作成を工夫すれば、自力で練習ができ意欲的な学習活動になり、成就感や達成感を味わうことができるであろう。
- 2 他を意識した集団の中で、個の役割を果たし目標を達成すれば、自信をもつことに繋がるであろう。

Ⅴ 研究内容

- 1 楽譜作成の工夫
- 2 合奏練習の工夫
 - (1) 特別支援学級の仲間との練習
 - (2) 町での小中合同練習
 - (3) 交流及び共同学習での練習
- 3 発表のあり方
 - (1) 文化祭での発表
 - (2) 郡市振興大会での発表
 - (3) その他の場面での発表
- 4 実践を通しての生徒の変容

Ⅵ 研究の実際

- 1 楽譜作成までの流れ
 - (1) 少しの力でも音が出せるハンドベルやトーンチャイムを選ぶ。
生徒の実態や人数により、曲目を決める。
 - ・楽器を鳴らすことができるか。
 - ・左右違う手の動きができるか。(複数本の楽器が可能か)
 - ・使われている音と人数の兼ね合いで、演奏が可能か。
 - ・生徒が親しみをもって演奏できる曲か。
 - (2) もとの楽譜をコピーし、使用する音を確認し、楽器に色シールを貼る。
 - ・ヘ音記号の「ソ」は紫、「ラ」は黄色と決めてしまう。
 - (3) もとの楽譜にその音の色を色鉛筆で印をつける。
 - ・一音ずつ色鉛筆をつかい音符の付近に印をつける。
 - (4) 1人2本以上の担当になるので、色の重なりを見て担当を決める。
 - ・なるべくリズムがとりやすいように、同じリズムを組み合わせる。
 - ・曲がスムーズに流れるように、つながりが速い部分の担当は同じ生徒にする。
 - ・3本以上の担当は、楽器のチェンジが可能な場所を考慮する。
 - (5) 小節ごとに区切った用紙に、担当ごとの楽譜を作成する。

2 合奏練習の工夫

(1) 特別支援学級との交流

本校は「自閉・情緒障害」「知的障害」の2クラスの特別支援学級がある。それぞれが交流する場は、美術での水彩画制作や体育・音楽の授業などで週に4時間程度はあるので、和やかな雰囲気の中で学習にとりくめている。昨年度の目標と練習内容は下記の通りである。

目標 明石祭での発表を成功させよう。

月日	内 容	工夫点と生徒の様子
5.30	○目標を決める。	・みんなで話し合い目標を決めた。今年もトーンチャイム発表を行う事や曲目は決定していたので、自然な形で発表を成功させたいという目標があげられた。
6.1 ↓ 14	○約束の確認 ○楽譜配布 ○個人練習 7時間分実施	・練習活動での約束を確認させる。 ・楽譜を見て自分のパート色を確認させ、自分で楽器を準備させる。 ・自分で数を数えて演奏できるように繰り返し行う。 ・個々指導する時間も設ける。
6.16 ↓ ↓ ↓ 7.16	○全体練習 22時間分実施 ○課題点を話し合う ○客観的に演奏を聴く ○改善点を話し合う 本時 タブレット使用	・教員のテンポに合わせて合奏する。初めはゆっくり合わせ、徐々にテンポを速める。 ・長い曲は短く区切って練習させる。(集中力が続かないため) ・毎時間の間に感想や意見を聞く。自ら課題点をあげさせ話し合うムードをつくる。 ・録画した音を聴き、話し合いを深める。 ・教員のテンポなしで演奏ができるようにする。
10.27 28	昨年度の内容 ○リハーサル 3時間分実施	・ステージでの練習は全体練習の中でも数時間行っているのので、主にステージに上がるタイミングや音の響きを確認する。
10.29	○文化祭での発表	・緊張しながらもミスすることもなく、堂々と発表ができる。 ・発表直後から生徒たちは成就感と達成感を味わっている。ステージ上で拍手喝采を浴びている生徒たちの誇らしげな表情がみられた。
11.1	○振り返り 1時間	・今回の練習や発表の反省点を個々発表させ、来年度の課題を考えさせる。

今年度は小中合同学習を実施するため5月からのとりくみとなった。10月からの「工夫点と生徒の様子」は昨年度のものである。昨年度はトータル32時間分の練習時間を費やした。練習での過程では、いくつかの目標を立てながら進めた。

本時の目標 全体で合わせた曲を聴き、自分と全体の課題点が発表できる。

(3) 展開 (8/22)

学習内容と 生徒の活動	時配 (形態)	教員の支援 (○) と評価 (△)	資料等
1 本時の学習の内容と目標、時間の流れを確認する。	5分 (一斉)	○ Eへは、言葉の文節をあげ、ゆっくりと話すよう配慮する。	活動カード
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 「栄光の架け橋」を合奏し、課題点を話し合おう。 </div>			
[準備] ・人数分のトーンチャイムと楽譜、譜面台を準備する。 ・周囲の状況判断をしながら準備する。 ・譜面台を組み立てる。 ・譜面台に楽譜を置き待つ。 ・トーンチャイムを所定場所に置く。	5分 (個人)	△ 目標と活動が理解できたか。(発表) ○ 具体的な係り分担は特に決めていないが、周囲の状況を見て臨機応変に動けるように言葉かけをする。特にFは指示されたこと以外は動けないので、どう動けばよいかを考えさせ気配りの意識を身につけさせたい。 △ 譜面台が組み立てられたか。また、友だちへの気配りができたか。(観察)	譜面台 楽器 楽譜 タブレット
2 前時までの復習を兼ねた個人練習をする。 ・これまでの注意点を確認する。 ・これまでの注意点に気をつけて、個人練習をする。 ・リズムがわからない箇所があったら手を挙げ教員に聞く。	15分 (一斉)	○ 前時までの注意点が思い出せない生徒には、どうしたらよいか助言する。(メモをとった事・友だちに言ったこと) ○ 特にDには、繰り返し練習するように助言する。 △ 注意点に気をつけながら個人練習ができたか。(観察)	
3 全体で合わせる。 ・注意点を意識して全体で合わせる。 ・全体で合わせた演奏を録画する。 ・録画した自分たちの演奏を確認する	10分 (一斉)	○ 自分や周囲の音を聞きながら演奏できるようにテンポはゆっくりと流したい。 ○ 本番同様の緊張感を持つよう促す。 ○ 全員タブレットが見える位置にいるか配慮する。	
4 改善点を考え、発表する。 ・良かった点や改善点または感想を表現する。 ・友だちの意見を聞く。 ・改善すべき小節のみを再度合わせる ・最後に本番と同じように立って演奏し、お互いに拍手をし合う。 ・個人評価表で振り返る。 ・教員の話聞く。	15分 (一斉)	○ 特にBやCは音感が優れているので、課題のある小節を指摘し的確な意見を引き出したい。 ○ EとFは意見が言えるまで待つ。 ○ 出された改善点は、板書し視覚的に理解できるように配慮する。 ○ 意見を取り入れられたという自信を持たせたい。 △ 自分と全体の改善点や感想を述べることができたか。(発表) ○ 全体としてまた、個人として頑張ったところや向上したところを賞賛し、次なる意欲につなげる。	評価表

(2) 町での小中合同練習

今年度、白子町が振興大会の発表となったため、小中合同でトーンチャイム演奏を行うことになる。

小学生にとってトーンチャイム演奏がどの程度できるかが不安ではあったが「やればできる」というチャレンジ精神をもってとりくむこととなった。

中学生と小学生との交流は、毎年、年1回の合同学習会を実施しているので関わりは自然にスムーズにできるが、内面的な細かい実態については把握できないので、事前に小学校から実態情報を収集し、曲目と各児童生徒のパートを決めた。

以下、打ち合わせ・練習日程・発表の計画である。(資料P8)

(3) 交流及び共同学習での練習

昨年度より、大網白里特別支援学校在籍の生徒との交流及び共同学習(年2回)において、トーンチャイム演奏を一緒に行っている。みんなと一緒に演奏することができた。一つの曲を演奏するという同じ目標をもって、音楽を楽しみながら交流することができた。

工夫点

- ・2つのパートを担当している生徒のパートを分け、1本のトーンチャイムで演奏した。
- ・特別支援学校の教員に楽譜を指でさしたり、拍子をとっていただくなどの支援を行った。
- ・今年度(1回目)は特別支援学校の教員にかわって、生徒につかせ、他者のために動く事の配慮を考えさせる機会とした。

大網白里特別支援学校の先生から感想をいただきました。

交流及び共同学習の授業を参観して (生活単元学習トーンチャイム合奏をしよう)

- 生徒たちが、全員、真剣に演奏に取り組んでいて、とてもあはらしかった。私語がなく、みんなが集中して友達の音を聴き取り、タイミングよく自分も鳴らす、ということができていた。また大網特支の生徒への自然な生徒によるサポートもあはらしかった。
- トーンチャイムの持ち方、持つ位置、鳴らし方、姿勢などが良く、そのために良い音(きれいな音)が出るのだろうと思った。
- 机という距離や、トーンチャイムを持って待っているとき

の角度などに違いがあり、トーンチャイムを机に近い位置で、ほぼ水平に持っている生徒、60°くらいで持っている生徒、机に手が付いている生徒・付いていない生徒と様々であった。という角度・距離が、演奏に良いのか、統一できると良いと思った。

3 発表のあり方

(1) 文化祭での発表

本校では「明石祭」と名付けた文化祭で合唱コンクールや文化的な活動発表を行っている。毎年、特別支援学級の生徒もステージに上がる。本校でのトーンチャイム演奏は数年前から実施しているが、合奏での取り組みは3年目となる。三年間の発表については、下記のとおりである。

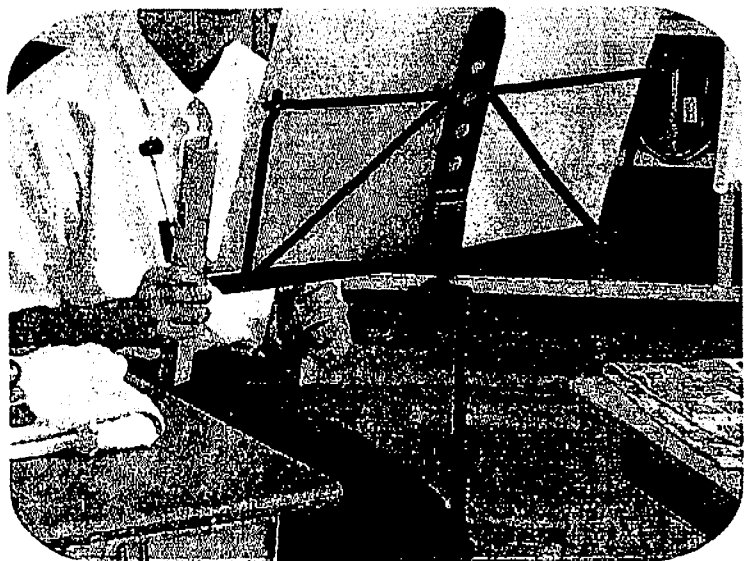
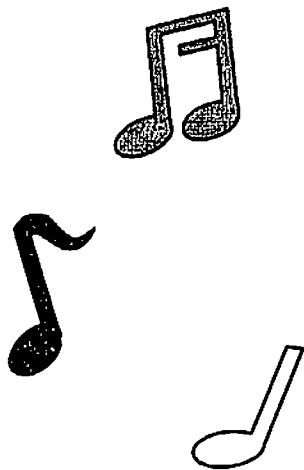
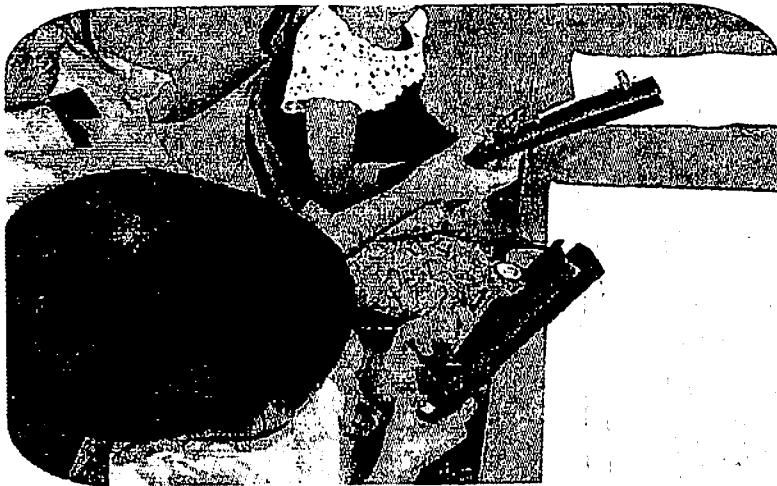
月日	発表者	曲目と状況
2015年 10月24日	(知的) 1年女子1人 2年男子1人 3年男女各1人 (情緒) 1年男子2人 2年男子2人 3年男子1人 計 9人	「威風堂々」「秋のメロディー」 ・大勢の人の前で立つステージは、想像以上に緊張したようだ。練習では完璧だった箇所も間違えて鳴らしてしまった生徒もいたが、無事に最後まで終わらせることができた。緊張することなく演奏する事の課題が残る。
2016年 10月29日	(知的) 1年女子1人 2年女子1人 3年男子1人 (情緒) 2年男子2人 3年男子2人 計 7人	「いつも何度でも」「木星ジュピター」 ・昨年の反省点を生かし体育館での練習を多く取り入れたが、場所だけの問題ではなく人も加わることで緊張も倍増する。日頃、人前で表現する機会がない生徒たちにとっては当たり前のことである。しかし、大きなミスもなく今年も終えることができた。人前での発表リハーサルも視野に入れる必要がある。
2017年	(知的) 1年女子2人 2年女子1人 3年女子1人 (情緒) 3年男子2人 計 6人	「栄光の架け橋」「エリーゼのために」 「君をのせて」 ・人数が少なくなったことにより、一人のパートも増えるが、生徒たちのより難しい曲に挑戦したいという意欲を受け同じパートを分担させる方法を取り入れた。

(2) 郡市振興大会での発表

長生地方特別支援教育連盟で主催する郡市振興大会では、毎年、長生郡市内小中学校の特別支援学級在籍児童生徒の発表が順番で3～4年ごとに行われる。白子町では、4年前に「将来の夢」をテーマとしたダンスを発表した。今年度はトーンチャイム合奏を小中合同で発表することになった。学校の文化祭とは違い、大きな会場やたくさんの観客の前での発表は、想像以上に緊張するであろう。しかし、そのような体験こそが、より児童生徒を大きく成長させてくれるに違いない。

(3) その他の場面での発表

緊張からくるミスをなくすため、また、通常学級生徒との交流を図るために、教室以外の場で披露する機会を多くした。昼休みに中庭で、ちょっとしたストリートミュージシャンの気分での発表である。ほとんどの生徒はトーンチャイムという楽器を手にしたことがなく、美しい音を奏でるメロディーに興味を持ち立ち止まってくれた。いつしかその輪は大きくなり、一緒に演奏を楽しむ場面へと変わっていた。自然にできた共生社会に繋がる一端が見られた。



4 実践をとおしての生徒の変容

目標達成のための観点

- 課題点の気づき
- 発言（課題点や改善点その他）の表現
- 改善点への方法
- クリアできたかの評価

生徒の変容の様子		観点別達成度	
A	<p>・社会性があり周囲の状況をよく見て、先を見通した行動ができるAは自分ができる事は他人（友人）にもすぐ手を貸してしまうところがある。しかし、学年を経るごとに「友人のためにはどうすべきか」を行動に移す前に考えて行動するようになった。譜面台の組み立てや楽器の準備など見守り、どうしてもできない時に声をかけた後、手助けするようになった。発表時には全体の指揮を執り、そのリーダー性を発揮してきた。小学生との合同学習会では楽器の持ち方など、ていねいにわかりやすいように工夫し教える姿が見られた。</p>	気づき	68.8%
		表現	86.3%
		方法	72.2%
		評価	79.5%

B	<p>・技術面では優れているBだが、集団の中で自分を表現する機会がさほど多かったわけではなく、初めはあまり課題点など意見を発することはなかったが、集団の中での学習の回数が増えるにしたがって、的確な課題点を積極的に発言できるようになった。文化祭での発表では、その技術を思う存分発揮し堂々とした演奏ぶりを見せてくれた。小学生との合同練習の場では「トーンチャイムの技術が向上するためには、どうすればよいか」を生き生きと熱弁するほどであった。</p>	気づき	97.7%
		表現	100%
		方法	90.9%
		評価	95.4%

C	<p>・場面緘黙。音に敏感でありリズムのずれ、音の違いを聴き取ることができる。口に出し課題点など表現することはないが、自ら進んで気づいたことがあると、黒板の前に行き自分の意見を書いて表現することができるようになった。以前はそれも躊躇していたが、今では曲の途中でも手を挙げ進んで黒板の前で自分を表現している。技術面も優れているので、今年度は1曲に5本のトーンチャイムを入れ替えて演奏する事にチャレンジさせ様子を見た難易度の非常に高い技術が求められるのだが、諦めず何度も間違えながらも努力し、できるようになってきている。</p>	気づき	86.3%
		表現	90.9%
		方法	95.4%
		評価	97.7%

D	<p>・動作がたどたどしく、昨年初めは全くできなかったが、繰り返しの練習で何とかできるようになった。恥ずかしがり屋で人前に出る事も難しかったが、無理をさせない程度に発表までもっていくことができた。発表を前に何度か校内の中庭で小さな発表会を実施し少しずつ慣れさせた成果だと思われる。本番では、緊張しながらも間違えずに演奏することができ、拍手喝采の後の恥ずかしそうな笑顔の中に誇らしげな表情が見られた。今年度は先輩としての自覚をもち、1年生に言葉で説明をしながら自分でやって見せ「どうすれば理解してもらえるか」を考えながら教えている姿が見られた。</p>		
		気づき	72.7%
		表現	83.3%
		方法	70.4%
		評価	90.9%

E	<p>・運動能力もあり技術もすぐマスターできた。小学校の時は体育などの授業では通常学級に入り学習してきたが周囲と同じ事の活動をするのが精一杯であり、まして人前で何かを披露する経験はなかった。文化祭の発表はまだ経験していないが、トーンチャイムの練習は大変意欲的にとりくんでいる。集団の中で自分が出てくることを考え行動できた一つに全員の楽譜集めと配布がある。指示をされなくても自ら進んで「人のため」を考え行動できたことは積み重ねてきた練習の成果なのではないだろうか。気持ちがマイナスに向くとすぐに顔に出るEだが、今のところ、少人数の中での練習は生き生きと笑顔でとりくめている。</p>		
		気づき	56.8%
		表現	45.4%
		方法	59.0%
		評価	68.1%

F	<p>・昨年度まで通常学級に在籍。声が異常に小さい。これまでは大勢の学級の一員として学習してきたが、一人でできないことが多く友人から手助けをしてもらいながらの生活であった。また、あえて自分から進んで動かずとも学校生活が送れた。そのため、あいさつや返事など黙っていても周囲の友人がしてくれるので声を出すことに慣れていない。2カ月の練習の中であえて課題点を言わせ声を発して表現することに慣れさせた。少しずつではあるが、声が出るようになり意見を表現する必要性を感じつつあるようだ。鳴らす楽器の音もか細くその自信のなさがうかがえる。これからの練習や発表を重ね、来年、再来年とどう変容するか楽しみな生徒の一人である。</p>		
		気づき	47.7%
		表現	37.1%
		方法	52.2%
		評価	45.4%

VII 成果と課題

1 成果

- これまでの学習では、教員から教えてもらうことの受け身の授業が多かったが、楽譜を見ながら自力で練習できることから、「自分たちだけの合奏曲作り」という意識を持てるようになり、表現能力が向上した。
- 集団の中で自分の意見や全体の課題点、改善点を話し合い、それが反映されることにより、集団の中の大切な個としての自覚を持つことができた。
- 一音でも誰かが間違えるとおかしいとはっきりとわかるトーンチャイム合奏を行う事により、集団の中の責任ある存在であるという意識が持てた。
- 自分たちで作りあげた曲を発表した後の拍手と喝采が、そのまま彼らの自信に繋がり誇らしげな表情が見られた。
- 全校生徒の中の小さな存在ではなく、誰もが主人公になれる体験ができた。
- トーンチャイムを通じて、自然に生徒たちと交じ合い交流することにより、共生社会に繋がる一端が見られた。
- 「できなかったことが自力でできた」という成功体験が、あらゆる学習に意欲的に取り組むことに繋がった。
- 集団の中に入っていく抵抗が少なくなり周囲への気配りも少しずつできるようになった。
- 課題解決の方法を自分たちで考え、積極的に活動するようになった。
- 発表する場を保護者が見ることによって、保護者にとっても子育ての自信に繋がった。

2 課題

- 生徒数が年々減少傾向にあるため、曲目も限られてきてしまい、どうしても一人の負担が大きくなってしまふ。負担が大きくなると練習量も増え、意欲があればよいが反対に無気力になると、成立しないためとりくまない方がよいということになる。
- 難易度が下がると、今年度、とりくんでいる1年生にとっては物足りない曲作りとなり向上心が失われ、達成感が味わえなくなる恐れがある。
- 長い曲はどこを演奏しているのかが、わからなくなったり見間違えたりするのだが、そうなる初めからやり直さない限り成功にいたらないので、途中のアクシデントに向けた対処方法を工夫する必要がある。
- 生徒どうしの人間関係が成り立たないと、練習することさえも難しくなる。その中でそれを乗り越えられればメリットは大きいですが、できない場合の課題点が残る。
- 成功体験ができた場合はよいが、失敗した時の体験をどう活かすかにより、その体験のメリットとデメリットが大きく分かれるため、失敗した時の対処指導を考えておく必要がある。
- より多くのメリットのある発表の場の設け方をどうするべきか。

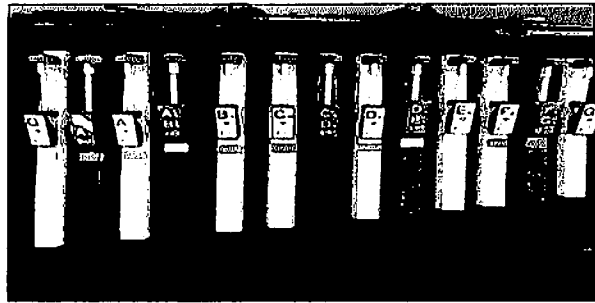
資 料

・ 楽譜作りの過程	1
・ 現在の楽譜について	2
・ これまでの楽譜の変容	3
・ これまでの実践例	4～5
・ 個別のチェック表	6～7
・ 振興大会に向けての計画	8
・ 生徒の変容 アンケート	9
・ 保護者の感想	10～11
・ 生徒の感想	12～14

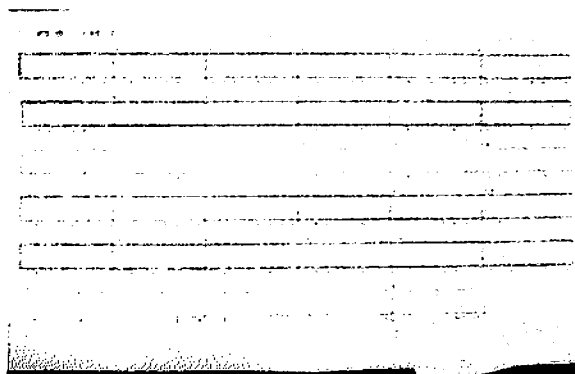
楽譜作りの過程



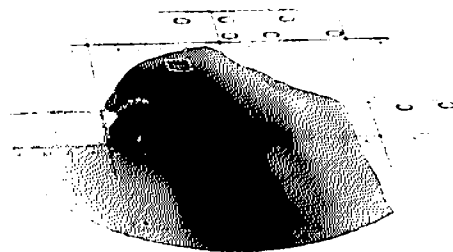
1 楽譜に音階ごとに、色をつける。



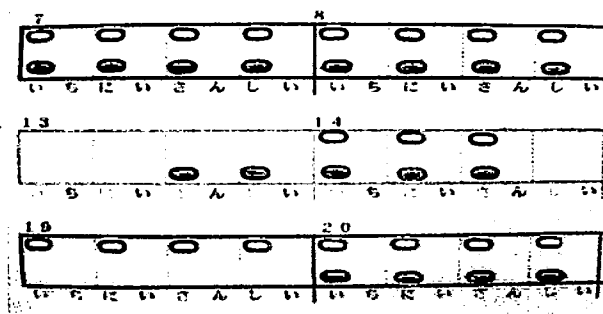
2 楽器に音階ごとの色シールを貼る。



3 楽譜（次ページ参照）にパートごとの印をつける。



4 印をつけたところに、色を塗る。



5 自分の楽譜ができあがり。

楽譜について

- ・下の楽譜は、生徒一人が担当する楽譜である。
- ・番号は楽譜の中の1小節ごとにふったもの。
- ・ひらがなの「いち・にい・さん・しい」は、何拍子かによって違って来る。3拍子なら「いち・にい・さん」の繰り返しになる。
- ・段ごとの色の違いは、演奏する時は、楽譜を目で追っているのだから、見失わないための工夫である。
- ・上の段の●は右手に持つトーンチャイムのパート、下の段の●は左手に持つトーンチャイムのパートとなる。よって、色の数が担当のトーンチャイムの本数となる。

練習の流れについて

- ・教員の「いち・にい・さん・しい」に合わせて、楽器を鳴らす。
- ・初めはゆっくり、徐々にテンポを速める。
- ・手拍子だけの合図で、合わせる。
- ・心の中で拍子を数えみんなで合わせる。

君をのせて

1 2 3 4 5 6
いちにいさんしい いちにいさんしい いちにいさんしい いちにいさんしい いちにいさんしい いちにいさんしい

7 8 9 10 11 12
いちにいさんしい いちにいさんしい いちにいさんしい いちにいさんしい いちにいさんしい いちにいさんしい

13 14 15 16 17 18
ち い ん い ち い ん い ち い ん い ち い ん い ち い ん い ち い ん い

19 20 21 22 23 24
いちにいさんしい いちにいさんしい いちにいさんしい いちにいさんしい いちにいさんしい いちにいさんしい

25 26 27 28 29 30
いちにいさんしい いちにいさんしい いちにいさんしい いちにいさんしい いちにいさんしい いちにいさんしい

31 32 33 34 35
ち い ん い ち い ん い ち い ん い ち い ん い ち い ん い

これまでの楽譜の変容

春よこい

はるよこい はやくこい

あるきはじめたみいちゃん

あかいはなおのじよじよはい

おんもへでたいとまっている

春よこい

はるよこい はやくこい

あるきはじめたみいちゃん

あかいはなおのじよじよはい

おんもへでたいとまっている

よろこびのうた

はれたるあおやうたはようく-ちよ-

ことりはうたえりはゆしにち-りて-

こころはあらかよあこびみちて

み-かむすわれらのあかるさえが

虫のこえ

あれまふじむがなかい

チンチロチンチンチン

ウリンウリンウリン

あはれまふじむがなかい

あはれまふじむがなかい

21 22 23 24

25 26 27 28

そむぬをわてどわとわと

てしんとわてい

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

7 8

13 14

19 20

いちにいさんしい

いちにいさんしい

いちにいさんしい

いちにいさんしい

これまでの実践例 — 2013年～2017年まで —

NO	年度	生徒数	楽器	曲名	楽譜の特徴○ と 課題●
1	2013年	6人	ハンドベル	「春よこい」	○主旋律を中心に表示 ●下のパートの表示が見にくい。
2	2014年	8人	ハンドベル	「虫のこえ」 「喜びのうた」 「小さな世界」	○上下パートを同じように表示 ○のばす所は長く表示 ●ピアノ伴奏がなければ、リズムがそろわない。
3	2015年	9人	トーンチャイム	「威風堂々」 「秋のメロディー」 (里の秋) (夕日) (虫のこえ)	○小節に区切って表示 ○歌詞を下につけてリズムをそろえる。 ○「威風堂々」は歌詞がないのでオリジナルの歌詞を作る。 ●歌のテンポは個々違うためリズムが合いにくい
4	2016年	8人	トーンチャイム	「木星」ジュピター 「いつも何度でも」	○歌詞のかわりに「いち・にいさん・しい」の表示 ○マークはパソコンの記号で表示 ●止める箇所も表示したことから複雑 ●印の色もパソコンで出したため色鉛筆の色と違う。
5	2017年	6人	トーンチャイム	「ミッキーマウスマーチ」 「栄光の架け橋」 「エリーゼのために」 「世界に一つだけの花」 「アベ・マリア」 「君をのせて」	○繰り返しが多く、長くなる曲は短くした。(長くても50小節程度がよい) ○4分音符はよいが、8分音符やそれ以下の16分音符リズムは「いち」ならば「いいち」と表示 ●8分音符や16分音符のリズムの取り方が難しい。

楽譜作成の実践を通して — 1～5について —

- 1 初めての合奏ということもあり、短くまたみんなが口ずさめる「春よこい」を選曲した。見やすいように文字を大きく表示し、歌を大きな声で歌えることを目標においたため、歌詞がメインの楽譜となった。上のパートは歌いながら鳴らすので容易にできた。下のパートは難しいのではないかと心配したが、出だしもリズムも歌に合わせて鳴らしやすかったので、楽しく歌いながら演奏ができた。下のパートが見にくく改善の必要性を感じた。
- 2 上のパートと下のパートを同じように表示したことにより、一層、各自の分担がはっきりとし、見やすくなった。また、長く音をつなげて発する箇所は一目でわかるように○ではなく□にし表示した。今回は歌は入れずハンドベルのみの演奏としたため、リズムが合わずピアノ伴奏をつけての発表となった。生徒たちだけのステージにするにはどうしたらよいか？という課題が残る。
- 3 「秋のメロディー」は歌詞があるので、練習する際は歌を口ずさみながら行いリズムをそろえることができた。音楽の授業で「曲には様々な拍子があること」を学んだので小節ごとに区切って何拍子かを意識させることにより、次第に歌を口ずさまなくてもリズムが合うようになった。しかし、この曲は途中で四拍子から二拍子に変わるのでその部分を合わせることに苦戦した。「威風堂々」は生徒も耳にしたことのある曲だが歌詞がなかったため、みんなで歌詞を考え表示した。また、楽譜自体を大きくしたり小節番号を大きい文字にしたことにより見やすいものとなった。

パソコン表示で印と色をつけたため色が足らなくなったり、楽器に表示した色と微妙に違ったことにより、混乱を招いた。また、正確に止める表示もしたため、楽譜が複雑になってしまい、情報量が多く目に入ることで導入部分ではスムーズに入ることができなかった。単純で且つ仕上がりが美しくなる楽譜の改善が必要であることを痛感した。
- 4 歌詞がない曲が多いため、歌詞のかわりに「いち・にい・さん・しい」というひらがな表記をした。練習する際も数が数えられれば各自で練習ができる点やリズムが正確にとりやすいメリットはあるが、曲が長くなると、どこを数えているのかがわからなくなってしまふというデメリットもある。しかし、「集中してとりくむ」事への意識付けができるという点ではよかったのではないかと感じた。今回の「いつも何度でも」は四拍子の82小節もある曲になってしまったので、集中力が続かないことから意欲に欠ける生徒もいたため、小節数は長くても50小節前後が適していると感じた。
- 5 今年度は発表の場が多くなることや、小学生との交流合奏もあるので曲数が大幅に増えたことにより、早い段階で楽譜作成に取りかかった。小学生の実態把握は各小学校の特別支援学級担当の先生方に協力を得た。支援が必要な児童は中学生がフォローすることとした。初めは戸惑っていた小学生であったが、練習も佳境に入りかなりスムーズにできるようになってきている。児童によってはより大きく表示した楽譜が適していると思われる。

練習時の個別評価チェック表 教員が生徒へ

	月 日 ()	名 前					
評 価 項 目							
1	約束が守られたか。						
2	自分の分担が正確に鳴らすことができたか。 (技術)						
3	全体で拍子に合わせ、演奏できたか。 (技術)						
4	自分で拍子を声に出して数え、演奏できたか。 (技術)						
5	自分の心の中で拍子を数え、演奏できたか。 (技術)						
6	自分の課題点はどこか気づくことができたか。 (気づき)						
7	自分の課題点を発表(表現)できたか。 (表現)						
8	自分の改善点を見いだすことができたか。 (方法)						
9	自分の改善点を表現できたか。 (表現)						
10	全体の課題点はどこか気づくことができたか。 (気づき)						
11	全体の課題点を発表(表現)できたか。 (表現)						
12	全体の改善点を見いだすことができたか。 (方法)						
13	改善点を意識して練習しようとしていたか。 (評価)						
14	改善点がクリアできたか。 (評価)						
15	意欲的な言動が見られたか。 (意欲)						
16	他を意識したプラスの言動が見られたか。						

練習時の指導チェック表 教員が教員自身へ

	月 日 ()	本時内容 :	
1		ミスをプラス面に向けることができたか。	
2		少しの向上点も見逃さず賞賛することができたか。	
3		状況に合わせての練習量、練習内容だったか。	
4		全員に意見や感想を述べるチャンスを与えられたか。	
5		生徒の意見を受け入れた練習ができたか。	
6		課題点を生徒から出させる言動ができたか。	

練習時の評価表 生徒が生徒自身へ A B C で表記

	月 日 ()	今日の目標 :	
1		約束は守れましたか。	
2		一生懸命、練習できましたか。	
3		なおさなくてはならないところが、わかりましたか。	
4		なおさなくてはならないところに気をつけて練習できましたか。	
5		自分の意見や感想が言えましたか。	
6		周囲の人への気配りができましたか。	

個別評価チェック表

- ・毎時間、教員が各生徒を観察し、チェックする。
- ・一つでもクリアできたら、その時点でチェックする。
- ・授業の内容により、チェックする項目の違いがある。

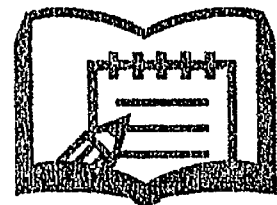
7月4日(木)							
評価項目							
1	約束が守られたか。	✓	✓	✓	✓	✓	✓
2	自分の分指が正確に鳴らすことができたか。(技術)	✓	✓	✓	✓	✓	✓
3	全体で拍子に合わせて、演奏できたか。(技術)	✓	✓	✓	✓	✓	✓
4	自分で拍子棒を出して数え、演奏できたか。(技術)						
5	自分の心の中で拍子を取って、演奏できたか。(技術)						
6	自分の課題点はどこか気づくことができたか。(気づき)	✓	✓	✓	✓		
7	自分の課題点を発表(表現)できたか。(表現)						
8	自分の改善点を見いだすことができたか。(方法)						
9	自分の改善点を表現できたか。(表現)	✓	✓		✓	✓	
10	全体の課題点はどこか気づくことができたか。(気づき)		✓	✓			
11	全体の課題点を発表(表現)できたか。(表現)		✓	✓			✓
12	全体の改善点を見いだすことができたか。(方法)		✓	✓			
13	改善点を意識して練習しようとしていたか。(評価)	✓	✓	✓	✓	✓	
14	改善点がクリアできたか。(評価)		✓	✓			
15	意欲的な音動が見られたか。(意欲)	✓	✓	✓	✓	✓	
16	他を意欲したプラスの音動が見られたか。	✓	✓	✓	✓	✓	✓



指導チェック表

- ・授業が終わった後、教員が授業の振り返りをし、次の授業に生かす。

7月7日(金) 本時内容: 全体で合わせる A曲のみ		
1	ミスがプラス面に向けることができたか。	
2	少しの向上点も見逃さず賞賛することができたか。	✓
3	状況に合わせての練習量、練習内容だったか。	✓
4	全員に意見や感想を述べるチャンスを与えられたか。	✓
5	生徒の意見を受け入れた練習ができたか。	
6	課題点を生徒から出させる言動ができたか。	✓



ふりかえり表

- ・生徒が授業の終わりに、今日の授業を終えて、振り返るためのチェック表。
- ・ABCで自分自身を評価し、各項目の行動を意識させる。

7月3日(日) 今日の目標: じぶんのぶんとん		
1	約束は守れましたか。	A
2	一生懸命、練習できましたか。	A
3	なおさなくてはならないところが、わかりましたか。	A
4	なおさなくてはならないところに気をつけて練習できましたか。	B
5	自分の意見や感想が言えましたか。	A
6	周囲の人への気配りができましたか。	A



目標 振興大会での発表を成功させよう。

日時	場所	内容	活動と学習内容
5月 中旬	白子町青少年 センター	○白子町研修会 特別支援部会 ・年間計画の確認 ・第1回合同学習会について ・振興大会について	特別支援部部長 各学校の特別支援学級担任など ・各パートの楽譜配布 ・曲名、練習方法などの説明
7月6日	白子町役場	・トーンチャイム配布 ・練習状況の情報交換	・小学生にとっての課題点を話し合う。 ・テンポの確認
7月18日 8:15~ 9:30	白湯小学校	○小中学校合同学習会（白子中 と白湯小のみ）	○大まかな曲の流れを知ろう。 ・近隣の学校間で合同練習会を行った。1時間ほどの練習であったが、人数が増えた分、曲の流れがわかり、合わせ方も少し身についたようだ。
以下は、今後の予定である。			
9月21日 9:30~ 11:30	白子中 特別支援学級 教室	○小中学校合同学習会 1回目 振興大会発表練習会 小学校3校 中学校1校 児童生徒数 18人	○曲の流れを知り、拍子に合わせよう。 ・小節ごとの数を間違えずに目で追って演奏できるようにする。
10月27日 9:30~ 11:30	白子中 武道館	○小中学校合同学習会 2回目 振興大会発表練習会 小学校3校 中学校1校 児童生徒数 18人	○拍子がなくても、合わせられるようにしよう。 ・心の中で拍子をうてる。 ・自分のパートを間違えずに演奏できる。
11月8日 9:30~11:30	白子中 武道館	○小中学校合同学習会 3・4回目 振興大会発表練習会 小学校3校 中学校1校 児童生徒数 18人	○周囲の音を意識して美しい曲に仕上げよう。 ・自分の音と周囲の音が合っているか聴くことができる。 ・発表の流れどおりに動ける。
11月10日 9:30~11:30			
11月14日	長生村文化会館	○リハーサル	○ステージの上で本番の気持ちで取り組もう。 ・発表の流れどおりに全員が動ける。
11月17日	同上	○振興大会発表	○一生懸命に演奏し全力を尽くす。

生徒の変容 アンケート結果から

実施日 2015年 11月 (現3年の2年前)

対象 特別支援学級生徒6人 内現3年は3人

2017年 7月

ア とてもそう思う

イ そう思う

ウ 思わない

エ 全く思わない

アンケート内容			ア	イ	ウ	エ
トーンチャイム練習は 楽しいですか	現3年の2年前	3人	●●	●		
	現3年	3人	●●●			
	今年度全員	6人	●●●●●●	●		
どんなところが楽しいですか (今年度のみの結果)	6人	・音がきれいで聴いていると気持ちがいい				
	5人	・むずかしい曲でもみんなで一つの曲をつくりあげるところ				
	4人	・自分の意見が言えるところ				
	3人	・みんなの前で発表できるところ				
		・その他 (みんなで活動できるところ) (みんなの意見が聞けるところ) (練習中おもしろくて笑ってしまうところ)				
トーンチャイムの練習や発表 は自分のためになっていますか	現3年の2年前	3人	●●	●		
	現3年	3人	●●●			
	今年度全員	6人	●●●●●●		●	
トーンチャイムの練習や発表 をすることによって、どんなと ころがためになりましたか	5人	・トーンチャイムが上手になった。				
	4人	・みんなと力を合わせる体験ができた。				
	4人	・発表することができた。				
	3人	・いろいろな人と関わられた。				
	3人	・自分の意見を言う(書く)ことができた。				
4人	・その他 (発表して拍手してもらってうれしかった)					
トーンチャイムを来年もやっ てみたいですか。	現3年の2年前	3人	●●●			
	現3年	3人	●●●			
	今年度全員	6人	●●●●●●			

考察

現3年生が1年生だった2年前は、初めて楽器を手にしたせいか、初めはうまくいかず練習も集中して行えなかった。様々な生徒の中で気が合わず練習に参加できないことから、スムーズに曲が仕上がらなかったが、2年生になり、3年生になった今年度は楽譜の読み方も習得し、すぐに自分のパートを奏でることができるようになっていく。同じような事が、現1年生にも見られ「トーンチャイムをやってもためにならない」と答えた1年生の生徒も「練習は楽しい」と前向きな感想をもつようになった。3年生にとって、今年度が最後の発表となるが「人前に出て何かをする」ことに対する抵抗は少なくなり、自信と誇りをもって披露することができている。その自信が「来年も続けたい」という回答につながっているのではないだろうか。

保護者の感想 A ～お子様から聞いたつぶやき～

曲の内容や、「難しいんだ○○」と言っていたが
「がくろ」をみて、イメージトレーニングしてました。

- 楽しい
- ～の所が上手くてよかった。
逆に上手くできた。

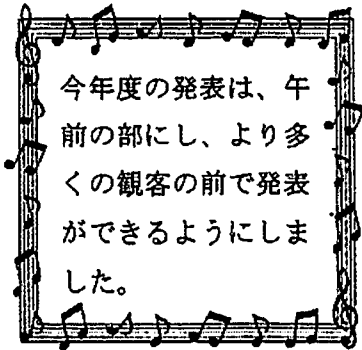
アバコリアをやっている
みんなを協力させてやっている

今年の曲は「エリーゼのために」と「ミッキーマウス」
だよ。
「エリーゼのために」って知ってる？

難しいけどおもしろい。小学校の前で発表の時、
とても緊張した。

保護者の感想 B ～トーンチャイム演奏を聴いて～

2・3年生の保護者の方のみ、お願いします。昨年の明石祭でのトーンチャイム演奏をお聴きになった感想を書いていただくと幸いです。



練習の成果がでていて、とても上手にできていました。
毎年、午後からなので観客が少ない事が残念です。

・ 昨年の明石祭は都合で行けず出来ませんでした。
本日 全体練習を見学して、一人一人集中に演奏していてとても感心しました。(生徒名)もとても自信をもって演奏していたので、これから続けてほしいです！

・ 一生懸命に演奏していました。
・ 部活をやっていないので、団結や学びの
良いと思えました。
・ 物事を一つ一つゆっくり進めるうちの子供の
様子今年に合っていると思いました。

・ たくさんの人の前であんな難しい曲を堂々と発表
できるとは思ってもみなかったです。全校の生徒さんから注目
される経験をさせていただき、ありがとうございました。
大きな子供の成長が見られ、私も少し自信が持てました。

・ 中学生になって学校の話をおくはくはするようになったと思いきや、
声を出して笑うのがおもしろい。トーンチャイムは難しいと言っ
ていますが、とてもおもしろく話してくかます。

生徒達の感想 ～トーンチャイムの練習をして～

どんなところが楽しいですか？ その他の意見

その他

いろんなきょくとか音楽になって楽しくえんそうができるからみんな

その他

がんばられるところ

その他

みんなとやって意見がきける

どんなところがためになりましたか？ その他の意見

その他

むずかしいきょくでも、できる所はできるようにな

その他

曲を完成させた時に達成感があった。

その他

はくしゃしてもらえた

その他

お友だちとはなせる

人のタイミングによっては違う曲に聞こえる事もあるが、ちゃんと合わせればまたまた曲になるということが分かった。

私はトーンチャイムが好きです。なぜならリズムにのってみんなと一緒に、えんそうできるからです。じょうずにえんそうできた時はとても嬉しいです。来年はもっとおずかしい曲をやりたいです。

トーンチャイムの練習は、おずかしいけれどとても楽しかったです。みんなと話し合っただけでできるようになってうれしいからです。発表をした時のみんなからのほめは、すごくうれしいからです。



ありがとうございました。



生徒達の感想 ～トーンチャイムの練習をして～

トーンチャイムの練習や発表について、どんなことでもいいですので、感想を書いてください。

トーンチャイムが一つでもすべらないように、
すること、メロディにあわせて、きよく作る
いくことがたいせつだと思います。気持ち
ちが一つになるようにがんばる事です。

小学木交の時もや、たことがありま
した。だけど、こんなおもしろい曲は、
はじめてでした。はじめは、むりだと思
いはした。でも、できました。うれしかったです。

初めて、トーンチャイムをさわりました。
いちばん大きいものは、
おもくて、ちいさいものは、かる
かったです。大きいのはなかなかな音
がでませんでした。でも、がんば
りました。



ありがとうございました。

